

図書館だより Vol.3 特別号 2021年12月



宝塚医療大学和歌山保健医療学部附属図書館

2021年7月、コロナ禍で1年延期となっていたオリンピックとパラリンピックが開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染者が増加していたタイミングで、半ば強行突破にも思えた大会開催でしたが、世界中から集まったトップアスリート達の活躍は私たちに大きな感動を与えてくれましたね。皆さんはどの競技がいちばん印象的でしたか？佐々野は、柔道、男子バスケットボール、フェンシングが観ていてとても楽しかったです！エペジャー——ん！！（とりあえず乗っかる、清々しいほどのにわかです）

海外メディアでは、選手の成績や順位だけでなく、大会運営に携わったスタッフやボランティアの方々のおもてなしや選手村での食事も話題となりました。

本学からも、オリンピックには中田 浩司先生、パラリンピックには川端 浩一先生が運営スタッフとして参加されました。テレビ越しに観るだけでは伝わらない緊張感や大会の裏側など、貴重なお話をコラムにさせていただきましたのでぜひ読んでみてください！（編集：佐々野）

TOKYO2020に参加して

中田 浩司



第32回夏季オリンピック競技東京大会（TOKYO2020）は、コロナ禍による1年間の延期、無観客のなかで行われました。

私は、フェンシング競技コールルーム・スーパーバイザーという役職で競技運営に参加しました。コールルームとは、試合開始前に、選手を呼び込み、用具装備の点検を行い、点呼、整列させ競技場へと送り出す場所であり、私は、その場所を統率する役割を担っていました。

テレビ放映の関係上、試合開始は時間厳守、1分の遅延も許されません。私たち運営する側は、D C A S(Detailed Competition Activity Schedule)と呼ばれる分刻みで書かれた計画書通りに進行させていきます。毎日ヒヤヒヤしながらもなんとか全ての種目で遅延なく進行でき、大会の成功に貢献できました。

また、フランス語話者として、次のパリ五輪フェンシング競技責任者と東京大会組織委員会の橋本聖子会長の通訳も行いました。

スポーツは、「する人（アスリート）」「見る人（観客）」に加え、「支える人」が必要です。在学生の皆さんのなかには、リハビリテーションによってスポーツを支えることを希望している方も多くいることでしょう。今回のオリンピックの一つのテーマでもあった「アスリートファースト」は、スポーツを支える人によって実現するものです。

今後、スポーツを支えるために何ができるのか、ともに考えていきましょう。

東京 2020 パラリンピック競技大会に参加して

川端 浩一



(メインダイニングホールの写真)

陸上競技の映像サポートスタッフとして東京 2020 パラリンピック競技大会に参加してきました。私の任務は、日本代表選手のレースや試技を撮影し、映像データやタイム分析データを選手とコーチにフィードバックすること、および海外有力選手の映像を撮影することでした。

陸上競技は 8 月 27 日から 9 月 5 日の日程で開催されました。最終日のマラソンを除き、連日午前と夜に競技が行われました。選手村とオリンピックスタジアムを毎日 2 往復し、朝から夜遅くまでサポート活動を行いました。

そんな毎日の中で一息つくことができる場所が選手村にある食堂でした。選手村にはメインダイニングとカジュアルダイニングの 2 つの食堂があります。メインダイニングは巨大なフードコートといった感じで、和洋中など様々な料理のほか、フルーツやデザートも充実していました。カジュアルダイニングは、日本料理がメインで 2 日ごとに日本各地の料理を紹介するという献立になっていました。どれも美味しいものばかりで、毎食食べ過ぎてしまうほどでした。

各国の選手やコーチたちも、リラックスする場所になっており、すごく和やかな雰囲気でした。そこには国や性別、障がいの有無は関係なく、みんなで楽しく食事をとります。これまでも何度か国際大会に参加させていただいていますが、私はこの雰囲気が大好きです。またボランティアスタッフの皆様にはとても親切に対応していただきました。朝早くても夜遅くても、みんなニコニコしながら元気よく我々を迎えてくれます。大会運営に携わっていただいた関係者の皆様にはとても感謝しています。いろいろなことがありすぎて 1 回だけでは全てを伝えきれませんが、サポート内容の詳細や選手村の部屋のことなど、機会があればいつでもお話させていただきます。興味のある方は川端までお声かけください。

来年は神戸総合運動公園ユニバー記念競技場にて神戸 2022 世界パラ陸上競技選手権大会 (8 月 26 日~9 月 4 日) が開催されます。東アジアでは初の開催です。トップアスリートのパフォーマンスを間近で見ることができる貴重な機会ですので、もし観戦が許される状況であれば、是非競技場に足を運んでいただければと思います。

